資料３－１

平成 26 年度の山部会の活動進捗報告（案）

1. 山部会の目標とテーマ（課題）

山部会の 3 ヶ年（平成 25 年度～27 年度）の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- ＷＧの中で**山村再生担い手づくり事例集の作成**を行い、作成を通じて得られた**人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく**
- ＷＧの中で**森づくりガイドラインの策定**と**モデル林によるモニタリングの試行的実施**を行う。
- ＷＧの中で、**木づかいガイドラインの策定**を行い、ガイドラインを活用した**木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行**

＜テーマ＞	＜解決手法＞
山村再生担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村再生が重要。先ずは人づくりに取り組む。
山村ミーティング	山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。
森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。
木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

2. 今年度の活動実績

今年度の活動実績を以下のとおりである。全８回のＷＧを実施し、各回でテーマを決めて行った。

活動内容	日時	場所
第 16 回 WG (恵那)　25 名参加	5 月 16 日（金）～ 17 日（土）	・　モンゴル村　管理棟 2F 会議室
第 17 回 WG (根羽)　17 名参加	6 月 12 日（木） 14:00-17:00	・　根羽村老人福祉センター　しゃくなげ １Ｆ　大ホール
第 18 回 WG (豊田)　24 名参加	7 月 25 日（金）～ 26 日（土）	・　豊田市役所足助支所　2F　第 3 会議室
第 19 回 WG (岡崎)　17 名参加	8 月 19 日（火） 14:00-17:00	・　ぬかた商工会館　2 階　青年部婦人部研修室
第 20 回 WG (根羽)29 名参加	9 月 19 日（金）～ 20（土）	・　根羽村老人福祉センター　しゃくなげ １Ｆ　大ホール
第 21 回 WG (岡崎)29 名参加	10 月 17 日（金）～ 18 日（土）	・　岡崎市　ぬかた会館　2 階　会議室
第 22 回 WG (恵那)17 名参加	11 月 21 日（金） 14:00-17:00	・　恵那市　明智振興事務所　ききょう会議室
第 23 回 WG (豊田)21 名参加	12 月 19 日（金） 13:00-16:00	・　豊田市役所足助支所　2Ｆ　第 3 会議室

※参加人数は事務局含む

3. 各テーマの活動進捗状況

今年度の活動進捗状況ついて、山部会のテーマに沿って以下にまとめる。

＜テーマ＞	＜今年度の活動＞	＜活動の進捗＞
山村再生担い手づくり事例集 森林の適切な管理は山村再生が重要。 そのため先ずは人づくりに取り組む。	・第 16 回 WG （今年度の進め方） ・第 17 回 WG～第 18 回 WG （スケジュール・取材先について） ・第 19 回 WG （取材先の決定共有） ・第 20 回 WG （取材者の募集について） ・第 21 回 WG （取材先と取材者の調整） ・第 22 回 WG （取材スケジュールの確認） ・第 23 回 WG （進捗報告）	〔進捗〕 ・取材先として、川・海の団体を選定し、流域圏一体化に向けたきっかけづくりが行えた。 ・「山村再生担い手づくり事例集の対象を増やしながら、川部会・海部会とも連携しながら作成する」という年度初めの目標に沿って、現在、編集を行っている。 ・昨年同様、山村再生担い手づくり事例集（vol.2）が成果となる。
山村ミーティング 山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。	・第 16 回 WG （今年度の進め方） ・第 19 回 WG （イベントの企画について） ・第 22 回 WG （情報共有:2015 年 2 月のイベント）	〔進捗〕 ・今年度は WG にて関連する他団体の活動など情報共有を行った。 ・「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく。」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われている山部会の会議で地元団体からの出席が見られた。
森づくりガイドライン 流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。	・第 16 回 WG（今年度の進め方） ・第 18 回 WG （地域の森づくりの紹介：根羽村） ・第 19 回 WG （地域の森づくりの紹介：岡崎市） ・第 21 回 WG （地域の森づくりの紹介：岡崎市） ・第 22 回 WG～第 23 回 WG （森づくりガイドラインについて）	〔進捗〕 ・流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成が始まった。 ・流域圏を構成する自治体から特徴的な森づくりに関する情報取集（現地調査含む）を山部会ＷＧで行った。
木づかいガイドライン 矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。	・第 16 回 WG（今年度の進め方） ・第 17 回 WG～第 20 回 WG （市民がアクションを起こせる木づかいの推進行動について） ・第 21 回 WG （ガイドライン作成の方向性） ・第 22 回 WG （ガイドライン作成事項の確認） ・第 23 回 WG （ガイドラインイメージの提示）	〔進捗〕 ・「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し部会で意見交換を行った。 ・意見交換を進め、市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン（案）をまとめた。

（1）山村再生担い手づくり事例集

■今年度活動により分かったこと

《先進活動団体の生の声》地域の自慢・苦悩・メッセージを聞き、情報共有が図られた。

○ 昨年と同様の手法で、新たに 21 団体の取材を行った。（木の駅ねばりん、菊の会、竹内牧場、ゴーバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館、三宅林業、東幡豆漁協、佐久島もんぺまるけ、アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会、足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園、こいけやクリエイト、アグロプエルタ、とよたプレーパークの会、じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園）

○ 山村で活動する団体のみなさんの生の声や活動について、取材を通じ山村再生の担い手支援（田舎暮らしの心得など）につながる情報を収集できた。

取材時の様子

取材先団体の活動の様子

《自発的な編集会議の開催》取材ノートの執筆支援と取材先団体の情報共有の場が創出された。

○ 山村再生担い手づくり事例集の編集過程では、取材者同士が集い、読み合わせを通じて、取材先の活動に対する意見交換や情報共有を行い、団体の活動について知りたいことなどを意見交換する編集会議を開催した。結果として、山村再生担い手づくりそのものへの理解が深まった。

○ 編集会議で出た意見は、山部会WGでもメンバーに報告され、WG内での情報共有が図られた点で意義がある。

自発的な編集会議の開催

《取材を通じた川・海部会との連携》取材先・取材者の双方に他部会のメンバー・団体が加わった。

○ 取材先団体として、川の活動団体では矢作川森林塾、矢作川水族館、海の活動団体では東幡豆漁協、佐久島もんぺまるけなどの団体が加わり、取材者にも川部会、海部会のメンバーの参加がみられ、事例集の作成を通じて他部会との連携が実現した。

《期待される今後の交流》取材先同士が交流できる場の創出についてアイデアが出され始めた。

○ 取材先同士の交流の場があると、互いの苦悩や山村再生に対する思いが語られ、担い手づくりの一層の推進が期待出来るとの意見が出され、今後、企画していくことが提案された。

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：ＷＧの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。
山部会では、山のことを知ってもらうため、山村再生担い手づくり事例集の作成を、流域圏（特に市民が中心）で一体的に行っていることを提案する。また、ここで実施するヒアリングを通じた交流のしくみを川部会や海部会にも提案したい。

〈活動進捗状況〉

- 取材者として、海部会や川部会に所属する懇談会メンバーの参加もみられ、昨年同様に連携できた。取材参加者数が伸び悩んだ点で課題がある。
- 取材者同士での中間報告会などを行いながら、取材レポートの編集を行いながら、内容の充実を図り、全体会議には山村再生担い手づくり事例集（案）といったかたちで参加者に披露したい。
- 今回の取材で得た活動団体とのネットワークをいかしつつ、取材先間の交流の場などを企画していくことがよいなどの意見が出され、山村再生に関わる新しい交流やアイディアの誕生が期待できる。

■今後の活動（案）

○ 取材を通じてえられた取材者と取材先の交流が継続的に保たれ、流域圏の活性化につながる仕組みづくりが必要。
○ 取材先間の交流の場の企画について、実現の可否、実施体制を検討していくことが必要。
○ 長期的には、今年度作成した事例集と合わせて平成 25 年度に作成した山村再生担い手づくり事例集を、流域圏全体に周知していくことが必要。周知の方法としてホームページへの掲載などが考えられるが、企画・運営・管理についての役割分担が必要。

(2) 山村ミーティング

■今年度活動により分かったこと

《矢作川流域圏でのイベント企画》他地域で行われる特徴的な山村ミーティングの情報共有

○ 岡森フォレスターズ、中川町きこり祭りなどのイベントの周知が行われ、来年度以降に矢作川流域圏で開催することに向けて機運が高まった。

他地域の参考例

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：山村再生担い手づくり事例集に登場する、流域圏の人と山村の課題に取り組んでいる若者が互いに交流することで、それぞれの取り組みを進化させると同時に、発信し広めていくためのアイディアを生み出していく。

運営方針：平成 26 年度は地域内外で行われる類似の活動等の様子を見ることとし、次年度以降、流域圏懇談会としてミーティングを主催するための情報収集・共有に努める。

〈活動進捗状況〉

- ＷＧを流域圏の地域で持ち回りで行ったことで、各地域で行われるイベント等について、ＷＧメンバーでの共有化が図られた。
- 木の駅が、根羽、恵那、豊田それぞれで立ち上がり、岡崎市額田地域でも準備が始まり、山村ミーティングの開催に向けた体制・機運が高まってきた。
- 事例集の取材を通じ知り合った串原農林と愛知・川の会が共催で流域カフェを実施し、懇談会の部会間の連携を実現化したイベントが実施された。

■今後の活動（案）

○ 流域圏の人と山村の課題に取り組んでいる若者を集い語り合う「山村ミーティング」の開催に向け、実施メニューや実施体制など、具体的な企画案の検討が必要。

○ 事例集の取材を通じ知り合った串原農林と愛知・川の会が共催で流域カフェを実施しており、今後、類似例として部会間連携を実現化するイベントの実施が期待できる。

(3) 森づくりガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《「矢作川流域の森と樹木」の作成》流域圏の森の全体像の理解が可能な資料の作成が始まった。

○ 流域圏の森林の地図、森林面積や人工林面積、間伐実績などの統計的情報、流域圏を構成する各市町村の森林づくりの行政目標、各地区の特色ある森づくりのアピールをまとめた「流域圏の森づくり」や「特徴的な森と樹木」をまとめた「矢作川流域の森と樹木」の作成が始まった。

《各地区の森の特色の情報共有》持ち回りで開催したWG開催地にあわせて現地視察を実施

○ 各地区の森づくりの特徴について、WGの開催地である岡崎市、豊田市、恵那市、根羽村それぞれの特徴的な森についてWGメンバーで現地視察を行い、情報共有を行った。

森づくりガイドラインに掲載していく
“流域圏の森づくり”の例
（岡崎　宮崎財産区有林）

森づくりガイドラインに掲載していく
“特徴的な「森と樹木」”の例
（アライダシ自然観察教育林）

《３県の林業普及指導員の交流》

○ 森づくりガイドラインの作成過程において、愛知県・長野県・岐阜県の３県で県境を越えた林業普及指導員の交流が始まった。

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：WGの中で森づくりガイドラインの策定、モデル林の設定とそこでのモニタリングの試行的実施を行う。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

〈活動進捗状況〉

- WGを流域圏の地域で持ち回りで行ったことで、各地域の課題や森づくりの特徴について現地視察なども行いながら実施でき、WGメンバーでの共有化が図られた。
- 森づくりガイドラインの目的と構成が共有され、記載する事項などの共有化が進み、情報収集ができた。

■今後の活動（案）

○ 各地域の特徴的な森づくりについての情報収集は、各回のWGの場のみで行うことが困難であることから情報収集の仕組みが必要。

○ 情報収集と並行し、森づくりガイドラインの作成を進めていくには、掲載情報や作成・執筆の分担など、ガイドラインの作成の進め方に関する役割分担の検討が必要。

(4) 木づかいガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《「木づかいガイドライン」の作成》これまでに意見交換した内容をふまえ作成が開始された。

○ 矢作川流域圏の木材利用を３県の住民・学識者・行政が一体となって推進するきっかけづくりをふまえ、それぞれができることを利用者のライフステージ毎に整理したライフステージアタック表が作成され、それぞれの取り組みについて意見交換を行った。

○ 上記をふまえ木づかいガイドラインのイメージを作成した。

《多くの意見が出た「木材利用の推進」について》WGにてブレーンストーミングで実施。

○ 矢作川流域圏の木材利用を３県の住民・学識者・行政が一体となって推進するきっかけづくりについてブレーンストーミングにて行った。

木づかいの推進につながる取組の見学
（木の家@根羽村）

木づかいの推進に
つながる取組の見学
（木の駅プロジェクト
@根羽村）

木づかいの推進に
つながる取組の見学
（森林組合新庁舎建築
@豊田市足助）

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行する。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

〈活動進捗状況〉

- 木づかいガイドラインに記載する「日常的に木づかいの推進に結び付く行動（さあ～しよう）」の行動が複数案出され、提案者・モニター・場所について意見交換が行われた。
- 「全国スギダラケクラブ」と連携した「スギダラケクラブ矢作川流域圏支部」が設立され、木づかい推進に向けた取り組みがはじまった。
- 上記に関連し、スギダラどこでもシリーズやスギダラキャラバンなど、木づかい推進に向けた取組みについて情報共有が行われた。

■今後の活動（案）

○ 多様な情報をガイドラインとして取りまとめていく際、メンバー間の役割分担について具体的な役割分担を検討をしていくことが必要。

4. 山部会全体及び他部会との連携における活動進捗

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3か年の運営方針からみる取り組み状況〉

・３つのテーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討**を行い、**全体WG（現在の山部会WG）にて、情報共有**を図る。

（「運営方針（1）全体WGと個別作業WGによる運営」より）

・当初３ヶ年ではコアとなる検討メンバーは決定したが、コアメンバーだけでは策定が難しいことから、**作業メンバーの確保と活動を通じて作業メンバーの拡大を図る**。

（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有）より）

・実際の作業工程や役割分担について、メンバー間で共有した上で、事例集、ガイドラインの策定作業へ移行する。

（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）

・**事例集やガイドラインは更新していくことを前提**として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、**柔軟に見直し**を行っていく。

（「運営方針（3）　できる取組みから実行する」より）

・事例集やガイドラインを活用した取組みは、山部会構成メンバーが**できることから試行的に行っていく**。

〈他部会との連携方針からみる取り組み状況〉

・事例集のヒアリングを山川海メンバーで行うことで、流域圏一体化のきっかけにする。

（「運営方針 他部会との連携方針」より）

・できれば、市民会議の活動として位置づけ、市民中心で活動展開を行っていく。

（運営方針「他部会との連携方針」より）

〈活動進捗状況〉

・４つのWGの活動報告と活動に対する意見交換が行われ、進捗があった。昨年同様に、山村再生担い手事例集が作成できたことや、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの作成目的・ガイドラインの構成について共有できた。

・WGは、矢作川流域圏の地域それぞれ持ち回りで開催したため、これまで参加のなかった団体からの出席がみられた。

・山村再生担い手づくり事例集の取材を通じ、川部会・海部会とも連携できた。

■流域連携に関わる活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

・市民企画会議の中で、ごみ･流木、土砂、木づかいは、流域連携テーマとして市民が中心となって検討していくことを確認できた。

・各テーマの主務担当者や検討方針、進め方について議論し、方向性を確認できた。

■連携に向けた今後の活動（案）

○ 事例集の取材を通じ知り合った串原農林と愛知・川の会が共催で流域カフェを実施しており、今後、類似例として部会間連携を実現化するイベントの実施が期待できる。

○ 作成した事例集、ガイドラインに対する意見収集や効果的な周知・広報についての場や仕組みづくり。

○ メンバーの固定化が進んでいる。行政は平日なら参加できるが、関係団体は休日を希望しているなど様々であり、改善策の検討が必要。

○ 流域圏懇談会そのものについての認知度が不足しているため、流域圏懇談会の活動を周知、広報していく手法の検討が必要。